

伊野バージョン 活動の基本モデル

2016,5,13

出雲市伊野地区自治協会

<事業の概要>

- 1 伊野の自然を舞台に子どもの遊びをつくり、遊びを通して子どもの発達・成長を促すことをねらいとする活動である。
- 2 地域・学校(伊野小学校)・島根大学(生)の連携によって、伊野のまちづくりを推進する事業である。
- 3 事業の実施にあたっては、島根大学教育学部の「1000時間体験学修」を活用し、学生の発想や企画力を取り入れ、事業効果を高めるとともに未来の教師に必要な力を獲得できるよう配慮する。

<活動の流れ>

活 動	活動の内容	学生に身につけてほしい力	地域・学校のねらい
自治協会代議員会 コミセン運営委員会	○伊野バージョンの活動と予算について承認を得る		○活動の概要とねらい、予算的裏付けについて確定する
伊野バージョン運営委員会	○地域・学校・学生の代表が集まり、活動内容やねらい(子どもに育てたい力)などについて意見交換するとともに年間の活動計画(概要)を策定する	○地域の課題把握 ○学校の教育課題理解 ○学生参加の意味理解	○年間活動計画を審議し、3者の協力体制を確立する ○学生指導について確認
年間活動計画作成	○運営委員会の話し合いを受けて年間活動計画を作成する(伊野地区自治協会、伊野コミセン、学生) ○年間活動計画について自治協会理事会やコミセン運営委員会、伊野小学で承認を得る	○段取能力 事業を実施するために必要な時間・物・人の段取りを考える能力 ○大局観 子どもの成長・発達を支援するための、地域・学校・学生の協働のありようを考える。	○コミセン・自治協会その他の団体との日程調整を行うことにより、事業を円滑に進める。
ガイダンス	○各事業の実施前に、学生を対象にガイダンスを行う(於島根大学)	○地域・学校の課題把握 ○事業の意味や自分の役割・責任について理解 ○安全管理の具体策について理解	○学習動機や達成動機を明白にして参加してもらうことで、学生の学びと地域事業の最大効果をねらいたい。
事業(イベント企画) ①森を舞台に遊ぶ ②海を舞台に遊ぶ ③島大学園祭参加 ④その他	<活動の流れ> 1 企画について学生と地域・学校との話し合い 2 当日までの準備計画作成(学生・伊野コミセン) 3 コミセン専門部等開催協力体制確立(人・物・情報発信) 4 安全指導計画作成(学生・地域) 5 参加児童募集チラシ作成(学生) 6 伊野地区町内への周知(前月の町内会長会) 7 リハーサル・直前打ち合わせ 8 当日 ・最終打ち合わせ ・安全確認 9 ふりかえり(評価) ・子どものふりかえり(学生指導) ・学生・スタッフ・学校のふりかえり ・保護者の感想アンケート実施	○企画力・指導力 斬新な発想(想像力)に加え、PDCサイクルを踏まえた段取り能力やリーダーシップ ○地域理解力 地域にとって学校や教育がどんな意味を持つのかを考え、多様な視点から課題解決の方法を考える力 ○子ども理解力 子どもの発達課題を見つけ必要な支援方法を考える力 ○人間関係力 地域住民や保護者等と良好な関係を結ぶ能力(コミュニケーション能力、リテラシー能力、聴きとる能力等) ○自己探求力 子ども・地域・学校の課題を把握し、課題解決の方策を考える。そのことを通して、教師像や教育の責任と倫理について考える。 ○安全指導力 危険予知・危険回避の方法や事故責任について考え、安全を担保する指導方法を考える	○子どもの持ち味を引き出す 伊野の自然を舞台にした遊びを通して、子どもの持ち味や能力を引き出し、望ましい人間関係をつくる。 ○学生・地域・学校連携 3者の連携により、伊野の子どもたちが様々な能力と志・郷土愛を育むように支援する。また、3者の協働により活力ある学校・地域づくりに寄与する。
年間の活動評価	1 子どもや保護者対象のアンケート実施 2 伊野バージョン運営委員会で成果と課題について評価 3 自治協会理事会やコミセン運営委員会で運営委員会評価について検討	○評価と課題発見の能力 活動の評価をする視点と課題を見つける。 ○リテラシーと社会参加の能力 異なる意見を受け止め、その意味を理解するリテラシーと合意形成の方略について考える。	○活動評価 伊野バージョンの活動評価と他の活動評価を含め、子育てやまちづくりの課題について検討する。 ○課題の共有 関係団体や地域住民に周知することを通して、課題共有につなげる。